

## 学校経営の基本方針

### ■ 学校経営方針の背景

平成28年12月21日、中央教育審議会総会において「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」がとりまとめられた。

①これからの時代を生きる子どもたちに必要な、**知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成**

○何を知っているか、何ができるか（知識・技能）

○知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）

※「現行学習指導要領の基本的理念を引き継いでいる。

②学習活動を通じて、教科等横断的な資質・能力や教科固有の見方・考え方を育てることを重視（主体的・対話的で深い学び）

③「教科等横断的な視点からの教育内容の配列」「教育課程の編成・実施・評価・改善」「人的・物的資源の活用・組み合わせ」という3側面からのカリキュラムマネジメント

#### 「現行学習指導要領の基本方針」

○教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること

○育成を目指す資質能力の明確化（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）  
各教科・領域を3つの柱で整理した。

○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

○各学校におけるカリキュラムマネジメントの推進

○社会に開かれた教育課程の実現

○自主的、自発的な学習の推進

※学習指導要領第1章総則第3の1の（6）では、各教科の指導を通して資質能力の3つの柱をバランスよく育成していくため、子どもが自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、子どもの興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すことによって、子どもが学習の目的を自覚し、学習における進歩の状況を意識し、進んで学習しようとする態度が育つよう配慮することが大切である。

#### 「第2次かわさき教育プランの基本理念・基本目標」第3期実施計画R4～R7

○夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く「自主・自立」「共生・協働」

2025年までの第3期実施プランを作成し、基本目標に「自主・自立」（変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと）「共生・協働」（個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、共に支え、高め合える社会を目指し、共生・協働の精神を育むこと）を設定し、8つの基本施策と19の施策及び主な取り組みを明確にして、目標の実現を目指す。

○第3期実施計画で新たに位置づけられた事業

・市学習状況調査の結果の活用推進（基本施策Ⅱ—1 確かな学力の育成）

・かわさきGIGAスクール構想の推進（基本施策Ⅱ—4 教育の情報化の推進）

- ・教職員の働き方、仕事の進め方改革の推進（基本施策V-1 学校運営体制の再構築）

#### ○対応すべき主な教育課題

- ・ 感染症対策を徹底した教育活動の実施やICTを活用した子どもたちの学びの保障、心のケア
- ・ 地震対策及び激甚化する風水害への対応（地域の避難所・学校防災機能の強化）
- ・ 子どもの多様化するニーズへの対応（特別な支援を必要とする子どもの増加・いじめ、不登校）
- ・ 学校と地域の連携、協働を一層推進し、地域ぐるみで子どもの育ちを支える仕組みづくり
- ・ 児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

### 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現～

令和3年1月26日中央教育審議会答申

GIGA スクール構想の実現により、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、不安なく学習が継続できることを目指すと共に、これまでの実践とICTの活用を適切に組み合わせていくことでこれからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し教育の質を向上させることが期待できること。

全ての子どもに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成するためには、教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導を行うなどで効果的な指導を実現することや、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う等の「指導の個別化」が必要となる。

協働的な学びにおいては、子ども一人一人の良い点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である。同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ、刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。人間同士のリアルな関係作りは社会を形成していくうえで不可欠であり、知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子どもの関わり合いや子ども同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して、理解する実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性がAI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まるものである。

**学校教育目標**      **豊かな心とたくましい体をもち 主体的に判断し行動できる稗原の子**

**【よく遊び よく学ぶ子（知）】 主体的に判断し行動できる子**

- ・よく聞き、よく見、よく考え、進んで活動する子      ・読む、書く、計算に地道に取り組む子
- ・自分の考えをもち、話し合える子      ・最後まで取り組む子

**【認め合い 助け合う子（徳）】 豊かな心をもつ子**

- ・進んであいさつのできる子      ・お互いに認め合える子      ・協力し合える子
- ・心の痛みがわかる子      ・人を敬える子

**【粘り強く 挑戦する子（体）】 たくましい体をもつ子**

- ・いのちを大切にする子      ・健康や安全に気をつける子      ・体をきたえる子
- ・地域の文化、スポーツに参加する子

## 学校経営の基本方針と重点

### I. 新しい社会を創り出す能力や態度の育成に取り組む

- ① 児童が安全・安心な学校生活を送るために、全職員で場面指導を継続する。
  - ・年間を通して、「あいさつ・話を聞く・ルールを守る・正しく廊下を歩く・丁寧な言葉遣い」の定着に向けて、朝会や学年集会、学級指導等で場面指導を継続する。
  - ・あいさつは、校内では来校者に、校外では交通安全指導員や見守りの地域保護者の方にもできるようにしていく。さらに、児童の側からの呼びかけ活動などを効果的に広げていく。
- ② いのち、こころを大切に「心の通い合う学級づくり」を行い、人権感覚を養う。
  - ・児童の日々の細かな言動の変化を見逃さないよう観察し、言葉かけを行う。また、児童の問題行動を把握した時は、チームで迅速に対応する。
  - ・定期的に学校生活アンケート等を実施し、児童の実態を把握すると共に一人一人に聞き取りを行い早期対応に努める。
- ③ たてわり活動の充実を図る。
  - ・主体的にかかわり合うたてわり活動の在り方を構築する。児童の実態・計画の実際・実施状況・課題などを検討し、PDCA サイクルを通して、より良い活動となるよう更新していく。  
ペア学年活動（1年と6年・2年と4年・3年と5年）でのリーダーシップやフォロワーシップにおける能動的・自律的な判断や行動を育成していく。
  - ・子ども一人ひとりの活躍の場をつくり「自尊感情」を育てる。
- ④ 思考力・判断力・表現力を育てるために、また、人間関係をつくる力を育てるために、全ての教育活動において言語活動の充実を図る。
  - ・学級での学び合い場면을積極的に導入し、主体的で自立的な学びの構え、確かで幅広い知識の習得、仲間とともに課題解決に向かうことのできる対人技能、他者を尊重する民主的な態度を養う。
  - ・学校全体を視野に入れて、校内研究と併せて言語環境の整備を進める。（声の大きさ・発言の仕方グーチョキパー・話型等の掲示物を作成する など）
  - ・自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を重視することで、湧き上がる表現を大切にす。
  - ・「思いを聴いて、伝えて、深める国語 ～「かかわり合いを通じた資質・能力の育成を目指して～」をテーマに校内授業研究を通して、授業スタンダード・学びのプラン等を構築し、児童の資質能力の向上に努める。
- ⑤ 子どもたちが学び続けるために必要な、基礎・基本となる知識や技能の習得と定着に努める。
  - ・「できた、わかった、楽しい！」が一人一人の児童に実感できるように、指導内容や指導形態を工夫していく。（モジュール、少人数指導やTT等、専科、交換授業、ICT 活用等）また、「自力で、となりどうして、グループで」など実態や内容に合わせて学習の形態も工夫し、主体的に学び合う姿勢を育てる。
  - ・学習状況調査や校内研究のアンケート分析を行い、本校の児童につけたい力を客観的にとらえ、全校で改善に取り組む。（算数・国語がわかる、知的な楽しさを感じる、いじめに対する意識等）
  - ・学校評価でマイナスな面について、さらに詳細なアンケートを実施し、どこに力点をおいて指導すればよいか明確にし、指導支援を行う。

- ・GAGA スクール構想における「既習とつながる」「他教科とつながる」「他者とつながる」をキーワードに情報活用能力を育成する。情報部から提案されている GIGA 各学年指導計画に従い、情報活用能力を学習の基盤となる資質能力に位置付け、教科横断的に育成する。GIGA 端末のアプリを各学年の発達段階で適切に活用し、情報を収集・整理・比較・発信・伝達したりする力を育成する。
- ⑥ 学年チームまたは学級単位で創造的な活動に取り組む
  - ・慣例にとらわれず、こんな活動をしてみたら面白いのではないかという活動の実践に取り組む。教師の創造性が子どもの創造力を育てていく。感染症対策や安全面での十分な配慮をしながら子どもと創造的な活動を楽しむ中で、子どもたちの主体性、協働性、創造性を育む。

## II. 児童理解と人権尊重を大切にした指導に取り組む

- ① 支援教育コーディネーターを中心にして、さまざまな教育的ニーズのある児童の支援を全教職員で行えるようにネットワーク型の支援体制を大切にする。
  - ・課題を担任だけで抱え込むのではなく、学年や支援教育コーディネーターをはじめ全教職員が必要に応じて情報を共有しながら支援にあたる。
  - ・児童指導部会や職員研修等でケース会議を行い、児童理解の手法を学び、児童への対応に生かす。
- ② 児童の人間関係や言動をつねに把握し、児童指導・児童支援を基盤とした学年・学級経営を通して、よりよい人間関係づくりに努める。
  - ・学校生活のいろいろな場面で、児童がもっているよいところを見つけ、本人や友だちにそのよさを時間を置かず（ポジティブ フィードバック）伝えていく。（自尊感情や自己有用感を高めていく。）また、職員室でも、子どものいいところ見つけの情報交換をしていく。
  - ・思いやりの心が育つように、他者と接するときの言葉遣いや態度に気をつけ、互いを尊重しあっていることが伝わるようにする。（呼ぶときは〇〇さん付けて）
  - ・「かわさき共生＊共育プログラム」（7時間）の内容を効果的に実践し、効果測定の結果を活かしながら、自分づくり、友だちづくり、仲間づくりに役立てる。
- ③ 児童や保護者とのコミュニケーションを大切にし、問題行動の早期発見、早期解決、必要に応じて継続支援に努める。
  - ・授業時間以外の児童の会話や行動、表情に気をつけ、子どもの悩み（仲間はずれやいじめ等）を敏感に感じ取っていくようにする。
  - ・年3回の学校生活アンケートを行い、アンケート結果をもとに、児童との面談を積極的に行い、個人の内面の把握や学級で起こっている諸問題の実態に早期に気づくようにする。
  - ・児童や保護者が話しやすい雰囲気づくりを心がけ、「聞く・聴く姿勢」を大切にする。受容、共感、傾聴等カウンセリングマインドの姿勢で相手の立場になって話を聞く。
  - ・担任だけでなく管理職・CO 等、チームで子どもの実態を保護者に粘り強く理解していただく。
  - ・記録を残し問題が解決した後も、時々声かけやフォローを心がけ、見守っていることが伝わるようにしていく。
- ④ 特別な支援が必要な児童について、校内委員会、学年事例報告会や特別支援校内委員会などで共通理解を図り、全校的な視点で指導していく。
  - ・支援級在籍児童については、個別の教育支援計画（サポートノート）を作成し、担任同士や交流級担任

との連携、保護者との連絡を密にして、きめ細かな指導を継続していく。

- ・通常級において支援を要する児童について、情報を交換し合い、支援教育COを中心に、一人一人の教育的ニーズに応えられるような指導や支援を講じていく。

### Ⅲ. 現代諸課題、緊急な課題に取り組む

#### ① 学年会を効果的に運営し、機能する学年会とする。

- ・学年主任の裁量の下、学年として児童の成長の方向性（スローガン）を共有化し、一致して児童指導や創造的な活動に取り組む。
- ・短縮時程やB時程等の時間を有効に活用し、教材の活用や学習方法について話し合ったり、各行事について教科との効果的な取り組みを意識しながら計画的に取り組んだりする。
- ・評価部会を中心に、学習評価についての事例研修を通して、共通な評価観を構築する。また、前期ののびゆくすがたの記述が無くなることで、今まで300文字程度の所見をより保護者に丁寧に説明していくための話し合いを定期的に行う。

#### ② キャリアステージにおける研修成果を共有する。

- ・初任者研修・2年目研修・3年目研修・2校目研修・中堅教員研修・15年研修・教務主任研修・総括教諭研修・小教研授業等キャリアステージにおける様々な研修機会があり、学んだことを職員会議や打合せ等で報告し教育技術を共有する。

#### ③ 現代諸課題（キャリア教育、食育、外国語活動、情報教育、防災教育、環境教育、読書活動、周年行事など）について、指導計画や学習環境を整える。

- ・キャリア教育は職業体験ではなく社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく「キャリア在り方生き方教育」として教職員が共通理解を図りながら実践していく。本年度は、「学校e-ねサミット」として、稗原小で取り組んできた教育活動を「わたしたちのまち川崎」の視点で見直し、心のよりどころとしてふるさと川崎への愛着をもち、将来の川崎の担い手となる人材を育む。
- ・創立40周年へ向けた副読本作成やスローガン、マスコットなどの構想を行う。
- ・一人一台の端末や情報機器を有効に利用し、児童自らが学習活動に生かせるようにする。また、ICTの適切な活用方法を身につけさせると共に、個人情報保護の意義や内容を研修し校内情報管理体制の構築を図る。
- ・GIGA 端末を活用の年間計画に従い、子どもが主体的にアプリケーションを活用することができるように指導助言を行う。

#### ④ 自らの力量や見識を高めるために、校内研究や各種研修の充実を図る。

- ・校内研究を共通の学びの場とし、経験年数にかかわらず、自らの授業力向上や授業改善に活かしていく。
- ・総括教諭や教科の常任委員を中心に、経験年数の少ない教員のために、積極的に授業を公開したり、自主的に研修を設けたりしながら、若手を育てていく。若手教員も積極的にベテラン教員の実践に学ぶ。
- ・他校の研究会や研修会に積極的に参加したりして、自らの力量を高めることに役立てる。また、各教科常任委員から、教科の最新の情報を伝達する機会を設けて、教職員集団としての力量アップにもつなげる。

- ⑤ 教職員が校務分掌を協働して企画運営する中で同僚性の構築を図る。
  - ・校務分掌内の組織において、共通の目標に向かって教職員が協働する過程の中で人材育成を図る。
  - ・教職員が校務分掌を主体的に行い、研修計画を立てて実践し、同僚性を構築する。
- ⑥ 危機管理に対する見識を深め、児童の安全管理や健康管理に努める。
  - ・児童の休み時間のけがや、授業中担任が教室を空けていた、などから生じる「ヒヤリ・ハット」を見逃さず、教職員全体で児童の安全管理や健康管理に努める。
  - ・毎月の安全点検を行うことで、必要な対策をその時々<sup>(報・連・相)</sup>に講じていく。
  - ・廊下の歩き方について、朝会やTV放送、学級指導などあらゆる場を通じて、児童に安全な歩き方を繰り返し考えさせ、安心して過ごせるようにする。
  - ・災害時を想定した危機管理を常に意識して、防災教育の見直し更新を含め、避難訓練等に取り組む。

#### IV. 開かれた学校づくりに取り組む

- ① 授業参観、保護者会、学校説明会、学校だより、学校HP等で学校からの情報を発信し、教育活動への理解と参画につなげていく。
  - ・学校の努力や課題、考え方、児童の様子などを様々な場で伝える努力をすると共に、保護者や地域からの情報を全教職員で共有し、共同意識を持って対応していく。
  - ・学校通信、PTAの運営委員会等を通じて学校の考え方を伝え、対話を進めていく。
  - ・学校ホームページの定期的な更新とミマモルメによる情報伝達を行い、教育活動への理解を図る。
- ② 学校評価をもとに、教育活動の改善に役立てる。
  - ・学校評価（児童、保護者アンケート、自己評価の振り返り等）を機能させ、学校運営協議会の意見をいただきながら、学校改善に努める。
- ③ 児童が地域の一員であるという意識と誇りがもてる契機になるように地域行事等への参加を呼びかける。
  - ・学校として地域行事を把握し、保護者、児童への参加を呼びかける。
  - ・発表の機会や要請があった場合、太鼓など極力地域行事への参加に協力する。
- ④ 児童の学習や学校生活が、保護者や地域の方々の協力によって、より豊かで安全な活動になり、同時に保護者・地域との連携がいつそう深まるように努める。
  - ・学習ボランティアや、地域の方の専門的な知識や経験を活用する。
  - ・授業参観では、保護者が参加できるような内容も工夫する。
  - ・学校公開週間などを活用し、人権教育、情報教育、環境教育など保護者にも啓発を図る学習を工夫する。
  - ・教職員自らが日頃から地域の方々とのコミュニケーションを図る、また、校外学習などの際に地域の方々に児童が進んであいさつできるように促す。
- ⑤ 地域の中で継続して取り組む教育活動を意識し、授業参観や研修の交流を通して、幼保小、小中連携を進める。
  - ・幼保小連携を積極的に行う。スタートプログラムの見直しを図り、幼保小が効率的で同一方向での支援指導ができるように話し合いの場を定期的に設定する。
  - ・小中学校間において、3校連を通して、連携の効果を探る。